

令和4年度重層的支援体制整備事業実施についての情報提供（氷見市）

1. 自治体概要（R4.4.1）

人口： 44,614人	世帯数： 17,422世帯
面積： 230.54km ²	高齢化率： 39.2%

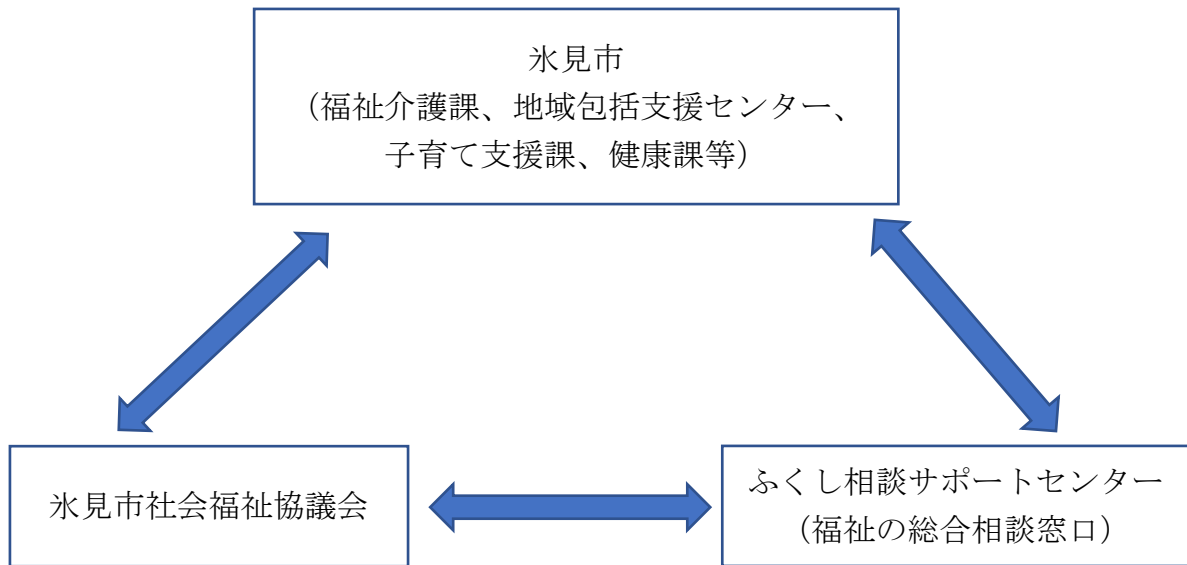
2. 重層的支援体制整備に取り組んだ背景・課題や、取組の理念

背景	平成26年5月に市庁舎内に、「ふくし相談サポートセンター」を開設、また、これまでに国のモデル事業である、「多機関の協働による包括的支援体制構築事業（コミュニティソーシャルワーカーの配置）」、「地域力強化推進事業（地区社協の相談窓口の設置・地域福祉活動サポーターの育成）」に取り組んできたことにより、令和3年度から重層的支援体制整備事業に取り組めるとしたものの。
取組の理念	地域住民や、その世帯の複雑・複合化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制により、属性を問わない相談支援、多様な社会参加に向けた支援、地域づくりに向けた支援を一体的に実施し、地域共生社会の実現を目指す。

3. 主な取組事項（各支援には実施にあたり、代表的な事業を記述）

「相談支援」	生活困窮者が抱える多様で複合的な問題について、生活困窮者及び生活困窮者の家族その他の関係者からの相談に応じ、必要な情報提供及び助言をし、並びに関係機関との連絡調整を行うとともに、さまざまな支援を包括的かつ計画的に行うことにより、生活困窮者の自立の促進を図ることを行っている 「生活困窮者自立相談支援事業」として、市からの委託により、社会福祉協議会、ふくし相談サポートセンターで実施している
「参加支援」	引きこもりの人を社会参加へと促すための参加支援コーディネーターを配置し、重層的支援会議（仮称）で支援決定した要支援者に対して、必要な支援の場を提供するとともに、関係者とのネットワークを構築していく 「参加支援事業」として、市からの委託により、社会福祉協議会で実施している
「地域づくり支援」	地域住民相互の支え合いによる共助の取組の活性化を図りつつ、生活支援が必要な人と地域とのつながりを適切に確保するとともに、これらを地域全体で支える基盤を構築することにより、誰もが住み慣れた地域で継続して安心した生活を営むことができる地域づくりを推進することを目的とする事業 「安心生活創造事業」として、市からの委託により、社会福祉協議会で実施している

・市の実施体制



・ふくし相談サポートセンターの写真

